

令和6年度 社会福祉法人しいの木会 事業報告

1. 法人全体

(1) 「しいの木会中長期計画」の具体化（進捗状況）

- ・当初、利用定員は、将来的に就労継続支援B型30名を10名程度にして生活介護7名を30名にサービス変更する為、隣接地土地の取得を優先課題としていたが、ホームどんぐりの借用期間が令和10年3月末と迫っていることから今後ホームどんぐりをどうするかが喫緊の課題となった。
- ・隣接地の土地購入に向けて地権者と協議を行うものの、相続等の問題があり進展がなく、次年度に課題を残すこととなった。
- ・ホームどんぐりの土地を購入し継続利用する案の他、グループホームの増床に向け、ホームたんぼぼ駐車場を建設予定候補地として、福祉施設の施工実績がある建設業者と相談を始めた。（7名定員程度）

(2) 利用者利用率の向上と新規利用者の獲得

相談支援事業所との情報交換を行い新規利用者の獲得を目指した。1名が体験利用を行うが、支援困難（ハード面）の理由から通所には至らなかった。
利用率向上・新規利用者獲得のためのアイデアは今後も検討していく。

(3) 法令遵守

- ・全職員に虐待防止・身体拘束適正化等の研修を実施した。
- ・BCP計画書に沿って研修・訓練を実施することができた。また、BCP計画の見直しを行った。
- ・社会福祉法人が担う社会貢献活動は、令和7年度の実施に向け職員から実施案を募り令和7年度の実施に向け調整している。

(4) 役員会等は年間計画に従って実施した。併せて法人の事業に対して適切なガバナンスを発揮できた。

(5) 常勤職員（支援員）8名中7名が外部研修に参加した。諸般の事情で他施設の見学は実施出来なかった。

(6) 日本知的障害者福祉協会への加入は、福祉の動向や情報を得るためにも入会のメリットはあるが、諸般の事情で加入には至らなかった。

(7) 福祉系専門学校・大学、新卒者の職員採用は、諸般の事情で採用募集は行わなかった。

(8) 役員会の実施

(役員会等の実施状況)

実施日	種別	参加者	決議事項等
6月5日	理事会	理事6名/6名 監事2名/2名 会計責任者1名	<ul style="list-style-type: none"> ・監事監査結果報告 ・令和5年度第3回補正予算の修正 ・令和5年度事業報告 ・令和5年度計算書類等および財産目録 ・就労支援事業の余剰金の使途 ・給与・退職金規定の改定 ・補正予算
6月15日	評議員会	評議員8名/7名 理事3名/3名 会計責任者1名	<ul style="list-style-type: none"> ・監事監査結果報告 ・令和5年度事業報告 ・令和5年度計算書類等および財産目録 ・補正予算
11月20日	理事会	理事6名/6名 監事2名/1名 会計責任者1名	<ul style="list-style-type: none"> ・理事長の報告事項 ・給与・退職金規定の改定 ・定款の改定 ・補正予算
11月30日	評議員会	評議員8名/6名 理事3名/3名 会計責任者1名	<ul style="list-style-type: none"> ・理事長の報告事項 ・定款の改定 ・補正予算
3月11日	理事会	理事6名/6名 監事2名/2名 会計責任者1名	<ul style="list-style-type: none"> ・理事長の報告事項 ・補正予算 ・施設長の選任・解任 ・令和7年度事業計画 ・令和7年度当初予算
3月22日	評議員会	評議員名8名7名 理事3名/3名 会計責任者1名	<ul style="list-style-type: none"> ・理事長の報告事項 ・補正予算 ・令和7年度事業計画 ・令和7年度当初予算

2. シーモック

(1) 就労継続支援 B 型（定員 30 名・利用者 39 名）

- ・利用者の特性や状況に合わせ、作業活動と併せて健康の維持増進を目的とした歩行活動や戸外での畑作業など情緒面や精神面を考慮した活動を継続して行った。
- ・年々利用者の年齢（40 歳以上が 40%以上）が上がり、健康面の配慮が必要であると感じた。
- ・就労支援事業収入の要となる菓子の売上額は減少したが、材料費等の支出を抑えられたので、利用者工賃は前年と同等程度支給することができた。

① スイーツワーク（菓子製造）

- ・担当利用者の健康面や情緒面の問題から作業人数が安定せず作業に苦慮することが多かった。
- ・焼き菓子の製造販売については、材料費の価格が高騰化し価格や分量の見直しを行った。

② ピースワーク

受注作業を中心に組み組みながら、自主製品作成や戸外での活動を安定的に取り組むことができた。

③ ベジワーク

耕作しやすい野菜栽培を行い販売した。畑作業に取り組めない時は、受注作業を取り入れることで作業活動の幅を広げることができた。

<年間の平均実利用者数> 1 日当たり 30.7 名 【30.8 名】 【 】は令和 5 年度

① スイーツワーク（利用者 16 名）

② ピースワーク（利用者 17 名）

③ ベジワーク（利用者 8 名）※生活介護 2 名含む

(2) 生活介護（定員 7 名・利用者 11 名）

① エコワーク（利用者 9 名）※2 名は就労作業場所で活動

- ・ペットボトルや古紙のシュレッダー等のリサイクル活動や歩行活動・体操など、健康維持の活動を中心に行った。
- ・リサイクル活動で得た業者買い取り金や市原市の助成金を基に、定期的にお楽しみ会を行った。
- ・長年取り組んできたリサイクル活動に対し、市原市から感謝状をいただき、今後の取り組みの励みとなった。

<年間の平均実利用者数> 1 日当たり 8.3 名 【7.3 名】 【 】は令和 5 年度

3. 相談支援事業

利用者が、サービスの更新や新たなサービスを希望された時、アセスメント・モニタリング・利用計画書等の作成を行った。

- ・利用計画書の作成は延べ 51 件【 49 件】 【 】は令和 5 年度
- ・モニタリング実施数は延べ 108 件【111 件】
- ・シーモック利用者 38 名【 39 名】
- ・法人外からの依頼 10 名【 10 名】

4. 日中一時支援事業

(1) 余暇活動

- ・土曜日を余暇活動日とし年 24 回実施した。
- ・季節を感じられる内容の活動を取り入れながら実施し、利用者の楽しみとして定着している。(活動内容) 初詣、いちご狩り、カラオケ、室内レク等

<年間の平均実利用者数> 1 日当たり 24.9 名【26.3 名】 【 】は令和 5 年度

(2) 時間外の受け入れ

- ・緊急時受け入れの利用はなかったが、通所日にご家庭の事情に応じ、時間外での受け入れを行い、わずかではあるが収入増につながった。

5. グループホーム事業

(1) 共同生活援助

- ・シーモック全常勤支援員がグループホーム勤務を経験することにより、利用者個々への配慮が充実したことで支援の向上につながった。
- ・12 月にホームどんぐりの利用者逝去の為、1 名退去となった。
- ・制度にない福祉サービスの提供として、シーモックの日中一時支援では対応できない利用者の入浴・食事提供サービスを保護者との 2 者契約で行った。(市原市とは相談済み)

月日	ホームどんぐり	ホームたんぽぽ	合計
4 月 1 日	4 名	7 名	1 1 名
1 2 月 7 日	3 名	7 名	1 0 名
3 月 3 1 日	3 名	7 名	1 0 名

(2) 短期入所

- ・利用者家族の緊急時の対応や体験的利用等、福祉の充実を図った。
- ・男性は 3 名が定期的に利用し、2 名が一時的に利用した。女性は 1 名の利用があった。

グループホーム名	利用者数	合計泊数
ホームどんぐり	5 名	1 9 7 泊
ホームたんぽぽ	1 名	5 泊